

NPO 法人

第49号

芦安ファンクラブ通信

南アルプス地域の自然を愛するすべての人達に対して、地域の人々との交流を通じた南アルプスの環境保全及び適正利用に関する事業を行い、もって、南アルプス市芦安地域の活性化に寄与する。～芦安ファンクラブの理念～

特定非営利活動法人芦安ファンクラブ 事務局 南アルプス市芦安芦倉 1589-8 大滝要造

TEL 055-288-2531 FAX 055-288-2533 HP <http://ashiyasu.com> Mail afc3193@nus.ne.jp

「おっちゃんも、芦安新緑祭に行って来とう！」

第3回南アルプス市芦安新緑・やまぶき祭 H25.5.12*

こないだ楡形のアヤメフェアへ行った帰りに、交通案内のおじさんに「来週の日曜日にも芦安の新緑祭りがおもしろいよ！」と教えられ、雨も上がったこんだし、ちょっくら行って来とうよ。

まだ開会前だったけど、みんな忙しそう。テントやステージ、いろんなブースの支度や案内の看板立てやら、活き活きとまさに「祭りの準備」の真っ最中さね。祭りのクライマックスの1つは前の準備に有りっちょうこんだね。

さてOPENはいつもの夜叉神太鼓。今回は中学生も1人加わって、そのせいか常に増して気合いが入っている様に聞けたよ。抜ける様な青空に、カーンと響く太鼓の音、たたいてる連中の気持ち良さそうなこと！芦安の文化財をでーじにしたいネ。

山をみれば、新緑を跳び越えて、昨日の雨を得て爆発しそうな濃い緑がキラキラかがやいてて、青空とみどりと人の花がみごとと咲いた祭りの渦。

次々詰めかける人の波、例年以上の入場者で1,000人を越えたってよ。

いろんなテントにいろんな物がいっぱいあったよ。名物芦安そばの会は毎度大盛況さね。隣のうす焼きは早々と売りきれっちゃまったとか。来年はいんめえぬこく（すこし小さく）して沢山作りたいて。他に山菜、おもち、カレーに焼きそば、何でも有るさ。全部は食えん！



和菓子店で、餠で作ったバラの花に思わず「てっ！きれいいじゃん！」。…買った。

今年もクライミングボードは大人気。登った方がいいが降りられんでジタバタしてる女の子もいつものこん。そばで見ている甲斐犬ちゃん、えれえおとなしいじゃんけ。



バスで廻るやまぶきツアーも目玉商品だって。ガイド役は休む暇なくピストン輸送。えらいこんだ。毎年来て、毎回ツアー参加っちゅうオバちゃんもいる程の人気。

舞台では次々と演奏・演技が披露されて目が離せん。いつも見慣れたフォークダンスも、明るいメキシコ音楽にピッタリとマッチし、見てて自然に体が揺れて来たよ。人は音に合わせて体を動かす唯一の生き物すらヨ。



他に、三味線、アカペラ、カラオケ、大声大会、俳句入選表彰と盛り沢山の演目に、昼飯を食う間もそこそこに見入っちゃった。名物(?) 芦安音頭も、誰が正しく踊ってるのかわからん状態で、それもいい。



最後に小中学生の合唱「ビリーブ」と「ふるさと」が演奏された。てらう事のない、まさに天使の歌声に涙が出そうになったよ。

赤く灼けた腕をさすりながら帰った。

「芦安新緑まつり」たっのしいネ。

来年もまた来ようっと・・・

おっちゃんの代筆⇒F C通信編集委員 清水毅

つながりに気づいた1日

実行委員会 清水秀美

前日まで雨マークの天気予報だったにも関わらず、当日はさんさんと降り注ぐ太陽に恵まれ、1000人以上の来場者があったと思われ地域のふれあいの場を提供できたお祭りとなりました。今回は地域の人達を中心とした「カラオケ大会」をはじめ「大声コンテスト」「芦安フォークダンス部演舞」「夜叉神太鼓」「芦安小中学生合唱」「甲斐犬披露」「津軽三味線バンド」「アカペラ」などが行われました。また、芦安ファンクラブが担当する芦安の史跡を巡るバスツアーやクライミングには大勢の方が参加されていました。

お祭りに毎年関わってきていますが、年々“行っている意味”が深まっているように感じています。それはとてもいいことだと思います。祭りに向けて一生懸命準備ができたし、楽しみながらできたことが何よりもよかったです。楽しみながら皆で作るという、その過程がこのお祭りの魅力のひとつです。また、今年来場した人が来年以降も足を運んでくれ、ステージや模擬店に「参加したい」という人が増えたらいいですね。

「新緑・やまぶき祭」は人のつながりが結果的に形となったお祭りです。やっぱり芦安という地域があって、じいちゃん、親、子供といったように、様々な人がつながっているという地域性だと思いました。昔はたくさんの方が暮らしていたけど、最近は若い人が出て行ってしまいがちです。そんな現代だからこそ、芦安を出た人たち、同じ所に住んでいても日頃は仕事で会わない人が集まって、顔を合わせて「久しぶりだね」と言える祭りは、意義ある祭りだと感じました。

来年も人と人とのつながりを感じられる1日になるよう、この1年をかけて少しずつ声かけをしていきたいです。



—やまぶき俳句大会特選作品紹介—

・新緑の山に言葉を失なへる ・やまぶきと競って山の鹿の子かな ・太鼓の音みどりゆるがすひびきかな

芦安伝統の輪かんじき復活プロジェクト開始！

みなさん、「輪かんじき」ってご存知ですか。そうです。かつては、雪の多い地方では生活のための必需品であり、特に山仕事や狩猟には欠かせない道具でした。とくに芦安の輪かんじきは、急峻な南アルプスの山林を歩きやすいように工夫されており、年間3千足以上も作られていたそうです。最近では、おしゃれなスノーシューやステンレス製のワカンなどが多いですが、輪かんじきの良さをもう一度見直そう！ということで、芦安ファンクラブでは、「伝統の芦安の輪かんじき」の復活に取り組むことになりました。ファンクラブ通信では、そのプロジェクトの過程を逐次お知らせしていきます。また、このプロジェクトが順調に進んだ暁には、多くの皆様の参加を募り、なんと「マイ・輪かんじきを作ろう体験会」を開催したいと考えています。さらに、製作後には、その手作り輪かんじきを使って「憧れの冬山トレッキングに行こう！」なんてことができればと思っています。みなさま、乞うご期待のうえ、活動報告に胸を躍らせながら、待っていてくださいね。なお、ホームページ上でも公開していますのでそちらもご覧ください。

プロジェクト① 「材料の調達」 3. 16. Sat.

堀内 訓

輪かんじきに使う木材は地方ごとに異なります。地域の特色を生かし、クロモジ・イタヤカエデ・タモ・タケ・ヤマグワなどがあるようです。芦安では、伝統的にヒノキが使われてきたので、今回もそれにならってヒノキを使うことにしました。調達にはクラブのメンバー5人が参加しま



した。場所は勇壮な甲斐駒ヶ岳を見上げることができる北杜市高根町の山林です。夏は広河原のインフォメーションセンターに勤務していらっ

しゃるファンクラブのメンバーの五十川さんの紹介で、間伐材を頂けることになりました。現場ではチェーンソウの音が鳴り響く中、1人50本調達のノルマが課されました。

直径5センチ・長さが70センチ、絶対枯れていないもの。間伐材はまとめて頂いてありましたので、山の奥深く行かなくても集めることができました。高根町は清里高原で有名なところですが、早春の3月であれば、まだまだ寒いとのことですが、今日の気温は比較的穏やかで、気持ちよく作業ができました。時間になり本数を数え、それぞれにノルマを達成し…。と、思ったら、あらあら?? 枯れている枝を採集した人もいたようですが、全員で250本の目標は大きくクリアできました。背負子に枝を束ねて背負ってみると…。なんとその姿は、二宮金次郎さんの像とそっくりでした。今日もしっかりとお勉強とお仕事を終えた5人衆は満足げに山を後にしたのでした。



プロジェクト② 「桧の枝曲げ作業」 4. 15. Sun.

渡辺 典美

卯月中旬とはいえ朝方は寒い。桃の木の資材置き場に到着するとすでにドラム缶で桧の枝（ワカン材）を煮出している火で暖をとりながら、続々集合するであろうワカンづくり仲間を待つ。

今日は高温で茹でた桧の枝を熱いうちに曲げてかんじきの輪づくりです。作業を開始すると茹であがった枝は手袋をしていても火傷をするくらい熱い。これを枝と会話する

がごとくゆっくりと曲げなければならぬ。しかし枝はいうことをきかない。曲がってくると皮がスリリとむけるのには驚きました。



皮のむけた白肌枝を針金で固定して長期乾燥し、この秋にはよいよワカンづくりの教材となる、という訳です。

強化プラスチックや軽金属全盛時代の我々には思いもよらない、手間暇のかかる作業でしたが、これにたずさわってみると、先人の経験に基づく知恵が身にしみました。

きっと試行錯誤の末に完成した輪かんじきは自分だけの宝物ではなかったかと思いを馳せて、先人は自然と共存していたんだなあと感じた作業工程でありました。



【連載】私と「山」と

山を愛し、山とともに人生を歩んでいる井口功さんインタビューの第2回目。前回は井口さんの登山の原点をうかがいました。今回は、1976年、初の海外登山マッキンレー峰登頂(6,191m)についてです！

〈今日はお忙しいところ、ありがとうございます。〉

よろしく申し上げます。実は今日は誕生日なんです。

〈おめでとうございます！おいくつになられたんですか？〉

今日で68歳になりました。3月になって、やっと冬眠から目覚めて歩き始めました。3月は延べ22日山へ行きましたよ。

〈ほぼ毎日ですね！さて、今日はマッキンレー峰登山のお話をうかがいたいのですが…。〉

はい。マッキンレーは今でも鮮明に覚えています。何しろ初めての海外の山でしたから。いろんなことがあったけれど、とにかく素晴らしかった。

〈31歳の時と聞いていますが、どんな準備をしたのですか？〉

1年間くらいかけて準備をしました。まずは装備です。共同装備はみんなで持ち寄って。テントなんかは今とは違ってウィンパー型でね、重さは今のテントの5倍くらいありました。個人装備はそれぞれ買い足したりして。僕は革製の2重靴を買ったんですけど、6万円くらいしたかな、当時の給料の2ヶ月分でしたよ。

〈装備一つとっても、準備するのは大変そうですね…。トレーニングはどうされたんですか？〉

とにかく毎日走っていました。飲み会の後でも走りましたよ(笑)あとは高所トレーニングで富士山へ何度も行きました。頂上で泊まって帰ってくるんです。

〈やっぱりトレーニングは重要なんですね。では、どんな行程だったのか具体的に教えていただけますか。〉

メンバーは13人。全行程は7月20日～8月24日の36日間でした。簡単にまとめたので見てください。(右表)

〈アラスカへ到着されてから、頂上にアタックするまでにずいぶん時間がかかるんですね。〉

そうですね。いきなり高度を上げると高山病になってしまうので。荷揚げをしながら、ベースキャンプからC1の間を何回も行ったり来たりして高度に体を慣れさせていくんです。

7月20日 羽田空港からアンカレッジへ
23日 車でタルキトナへ
25日 セスナ機でカヒルトナ氷河へ
30日 ベースキャンプ到着 4150m
31日～8月2日 C1(高所キャンプ)への荷揚げ
8月3日 C1入り 5200m
4日 第一次隊頂上アタック → 登頂成功 6191m
6日 北峰へのルート工作するも断念
7日～9日 悪天候のため停滞
10日 第二次隊頂上アタック → 登頂成功
11日 下山開始 BCへ
12日 BCからランディングポイントに到着
～18日 悪天候のため停滞
19日 飛行機にてタルキトナへ
8月24日 日本帰国



C1 キャンプへの荷上げ。4500m付近。(マッキンレー南峰を望む)

〈8月4日に、いよいよ頂上へのアタックとなるわけですね。どんな1日だったのですか。〉

朝の天気はこれ以上ないというくらいの好天でした。クレバスに注意しながら一步一步登っていきました。5600mを越えると皆息が上がっていたけれど、気持ちはどんどん高まっていきました。皆“登るぞ”という意気込みにあふれていました。

〈それで、無事に頂上までたどり着いたのですか。〉

いやいや、それが大変だったんです。頂上直下、もうあと数分で登頂できるというところで中間の一人が高山病で動けなくなってしまったんです。意識もはっきりしなくて、すぐに下ろさないと危険な状態でした。

〈え!?高山病ですか?頂上へは行けなかったのですか?〉

第1次隊は7人だったのですが、あとほんの数分で頂上だったので、隊長の指示で僕も含めた4人が頂上へ向かうことにしました。登頂は成功したのですが、早く戻らなくてはならなかったので頂上には5分もいなかったですね。写真を2枚撮っただけでした。



マッキンレー頂上に立つ井口さん(左)

〈そうでしたか。それで、その方は大丈夫だったのですか?〉

もう自力では歩けない状態だったので、ツェルトでくるみザイルで担架を作ってみんなで必死で下ろしました。途中意識の確認をしながら、危ない時は「息をしろ!息をしろ!」と大声をかけて顔をたたきました。それでも500mくらい下ろしたら意識が戻ってきて、何とか助かりました。

〈助かって良かったですね。〉

ええ、みんなこいつの命を守らなきゃいけないと思って本当に必死でした。アメリカの隊の人が自分のヤッケを貸してくれたりして本当に助かりました。

〈十分にトレーニングを積んでいても高山病にはなってしまうものなのですね…。〉

そうですね。その時は高度順応がうまくいってなかったのかもしれませんが、また高所では、酸素が薄いので自分で意識して深い呼吸をするようにしなければならぬのです。

〈とにかく皆さん無事に戻ってこられて良かったですね。トラブルはそれだけだったのですか?〉

いいえ、最後の最後にありました。下山の時です。氷河から飛行機でタルキトナへ戻るのですが、ランディングポイントで悪天候になり、1週間も待たされたんです。僕たちはまさかそんなに長い間停滞を強いられるとは思っていませんでした。他の外国の隊もいたので食料を分け合っていたら3日でなくなってしまっただけで、残りは紅茶と砂糖だけで過ごしました。とにかく腹が減ってね。極力エネルギーを使わないようにとにかく寝て待っていました。ま、今から思うとそれも面白かったですけど(笑)

〈やはり登山は様々な危険やトラブルと隣り合わせなのですね。それでも嫌な思い出にはならなかったのですか?〉

いえいえ。大変なことはありましたが、とても面白かったという思いが強いんです。何キロという大きな大きな氷河、仲間との長い共同生活、未知の世界への挑戦、とにかくすべてが素晴らしかった。「登ったぞ!」という達成感と充実感は大変大きなものでしたね。あの頃は僕も30歳で気力も体力も一番充実していたということもあるのかもしれませんが。僕にとってマッキンレーは最高の山となりました。



登山隊メンバー。後列一番右が井口さん

〈その達成感と充実感が今に続いているわけですね。〉

そうですね。68歳になった今でも山に登るためのトレーニングは続けています。やはりトレーニングをしている人としていない人の差は大きいですよ。どんな山であってもね。僕は今、年間100日以上以上の山行を目標にしています。去年は150日山に行くことができました。

〈本当に毎日登っているといった感じですね。〉

ええ。明日は瑞牆山に行ってこようかな、と思っています。瑞牆は近所なのでしょっちゅう行っていますよ。

〈これから登山にはいい季節になってきますね。お気をつけて。今日は貴重な時間をありがとうございました。〉

こちらこそ、ありがとうございました。



カヒルトナ氷河よりマッキンレーを望む

おじゃまします!

山小屋なう～北沢駒仙小屋～

NPO 法人芦安ファンクラブが指定管理を受けている南アルプスの山小屋の「今(なう)」を紹介する「山小屋なう」第2回目は、新しくなった「南アルプス市営北沢駒仙小屋」です!

北沢駒仙小屋は北沢峠の東、標高1980mに建つ山小屋です。長野県戸台の案内人、竹沢長衛が最初に建てた小屋で、かつては北沢長衛小屋と呼ばれていました。

広いテント場もあり、甲斐駒ヶ岳や仙丈ヶ岳への登山拠点として多くの登山者に親しまれています。その北沢駒仙小屋が、老朽化のため立て替えられました!新しい北沢駒仙小屋を、編集部がいち早く皆様に紹介します!!



建て替えられました!新しい北沢駒仙小屋を、編集部がいち早く皆様に紹介します!!

かわいらしい外観の小屋の玄関を入ると新しい木の香りが漂ってきます。まずは、1階を隅々まで見学です!案内してくれたのは、管理人の井上佳之さん。さまざまに散りばめられたこだわりを紹介してくれました。



1階は土間仕様になっています。
雨の日でも安心。



コインシャワー、



更衣室も!!



街にいるようなおしゃれな食堂
小屋の楽しみはやっぱり食事。

編集) 新しい小屋は、やっぱりきれいですね!

どんなところがポイントなんですか?

井上) 1階は土間になっていて、靴のまま食堂や乾燥室に行くこともできます。ちょっと食事や休憩をしたい、とか、雨の日にはとても便利だと思います。

あとは、断熱性がとても高いです。1階の薪ストーブと2階のファンヒーターで冬でも充分温かいです。秋になっても快適に過ごしてもらえそうです。



水洗トイレ(*^_^*)

編集) この小屋はテント泊をされる方も多いですよね。

井上) そうなんです。バスで来られるということもあって、7月8月は100張りのテント場はいつもいっぱいになります。初めてのテント泊に挑戦する登山女子やここを拠点にして仙丈、甲斐駒、そして早川尾根へ縦走していく大学の山岳部も多いです。

今年は、いつもはテント泊という方にも小屋での楽しみを味わっていただきたいと思っています。

それでは、畳の香りに誘われて、2階へLet's GO→!!



明るく開放感のある2階。
廊下も広くてぜいたくな空間。



新しいお布団は
もちろんふっかふか♪



こりゃあいいや！かがまんでも歩けら！
と、ご満悦のW氏

編集) 小屋の管理をされるにあたって、心がけていることなどはありますか？

井上) 北沢峠はバスで来ることができます。標高の高い山小屋ではお客様に我慢してもらわなければならないことも多くありますが、ここではできるだけ快適に過ごしていただきたいと考えています。小屋が新しくなり、お客様の要求に応えられる部分も多くなりました。多くの方に満足していただけるように努力していきます。

編集) 古い小屋がなくなり寂しいという方もいるのでは？

井上) そうですね。長衛さんが建てた小屋に愛着をもって下さった方も多かったです。でも、古い小屋の木材もここに使っていただいているので、かつての小屋の思い出を偲ぶこともできます。新しい小屋も以前の小屋にまして愛してもらえるように頑張ります。



編集) 食事メニューもリニューアルされたと聞きましたが、井上) そうです。新メニューのメインは山梨のブランド豚「フジザクラポーク」を使った豚しゃぶの黒酢ソースがけです。疲れた体でも食べていただけるように、さっぱりとした黒酢ソースで味付けしてあります。フジザクラポークは山梨の認定養豚農家だけが生産できる豚で、肉は柔らかく、甘くて美味しいんですよ。また連泊の方には、別メニューを考えていますので、こちら楽しみにかけてください。



編集) ん〜聞いているだけで美味しそうですね！山の中でこんなに素敵な夕食が食べられるなんて、贅沢ですね！！

編集) 小屋を利用する方にお願ひなどありますか？

井上) 宿泊を考えている方は、必ず予約をお願いします。小屋を利用される方には快適に過ごしていただきたいので、突然多くの方が来てすし詰め状態になってしまう、ということは避けたいですから。食事もできるだけ新鮮で美味しいものをたくさん食べていただきたいと思っています。緊急時以外はぜひ、予約をしてください。お待ちしております！

【宿泊料金】	
1泊2食付	7,900円
素泊まり	5,000円
お弁当	1000円
テント	500円/1人
予約 090-2227-0360	



山岳救急講習会をおこなって

高妻潤一郎

山岳遭難防止「大久保基金」の会主催の山岳救助講習会も今回で3回目となります。開催にあたって清水准一さんはもとより、毎回会場を提供して下さっている芦安山岳館の塩沢さん、スタッフの清水さん中込さんのご協力のおかげで、無事に講習会が終了することができました。本当にありがとうございました。

さて前回の講習会より、国際ライセンス取得も兼ねてメディックファーストエイド（略 MFA）ジャパンの講習会が1日、翌日に山の救助に特化した講習会を1日と、計2日間の日程で講習会を行ってきました。今回も前回以上の参加者で皆さんの救急救命に関する関心の高さにただただ驚いているところです。日本には多くの山岳エリアがあり、警察が中心となって救助活動を活発におこなっているところから民間の山岳会などが中心となっているところなどありますが、ここ南アルプスのように官民が一体となって講習会をおこなっている場所は少ないと言えます。それだけに、講習会では少しでも多くの方へ何か身に付くものがあればと思って、講師のいさお先生や清水准一さんと相談をしながら講習会をおこないました。時間的な制限がある中で2日間でしたが、皆さん本当に熱心にいさお先生の話に耳を傾け、積極的に実技もされていたように感じました。

さてみなさんのように訓練を受けている方でも実際の現場に遭遇するとなかなか思うようにできないものですが、重要なのは急病の登山者が目の前に現れた時、そのことに気づき、アクションを起こして何か手伝ってあげることだと思います。これは登山だけでなく町の中や自宅にいても同じことです。特別な手当ができなくても傷病者の近くにおいて声をかけつつ励ましてあげる。専門の医療チームが到着するまで手を握ってあげてあげる。そういった行為も実は立派な救急救命なのです。もし皆さんが今後、誰かの健康上の緊急事態に出くわすことがあったら、是非躊躇せず、近くに行き声をかけてあげてください。

これからも皆さんに知識や技術を身につけてもらうことで自信と、ちょっとした勇気を持ってもらう事のお手伝いできればと思います。ありがとうございました。



鳥たちの世界をのぞいてみれば…

春も近づいたある日の夕方。芦安を流れる御勅使川の河原で起きたできごとです。(photo: 清水准一)



①

— カワガラスのオス —



②

— なんとなくソワソワ —



③

— 羽をくわえて待つカワガラスくん
そこへ、お姫様登場!! —



④

— 羽を振ってアピールするカワガラスくん —
「ポ、ポク…き、君のこと…あの…」



⑤

「趣味じゃないわ。ごめんなさい。」



⑥

「フラれちゃった…(◇;)」
— カワガラスくん、頑張れ! —